

## 様々な生物が育つ夏

### ■稚魚・稚ガニが育つ河口

七北田川河口では様々な生物が育っている。中には死滅回遊魚（暖かい海流に乗って北上してきたが、冬の低温にたえられず死んでしまう）もいるが、多くの生物の姿を観察できる。下の写真の他にもシラウオやハゼの仲間の稚魚が観察された。また大型のガザミ(Fig.6)やスズキ、コイ、マハゼの姿も見られた。マハゼは2014年になって初めての観察である。なお、ギンガメアジは神奈川県立生命の星・地球博物館の瀬能宏氏より同定いただいた。



Fig.1 ヒラメ



Fig.2 クロダイ  
神奈川県立生命の星・地球博物館 魚類写真資料データベースに登録 番号KPM-NR 155702A



Fig.3 ガザミ(稚ガニ1cm)



Fig.4 ギンガメアジ(9cm 死滅回遊魚)



Fig.5 マゴチ(3cm)



Fig.6 ガザミ(成体メス)

### ■8月も残るイシガレイ

過去3年間の調査では、イシガレイの稚魚は8月以降観察できなかった。しかし、今年は8月にも8匹の稚魚を採集し、平均全長は6.00cmであった。過去3年の調査で8cm程度に成長した個体は外海に移動すると考えられるが、今年のカレイの成長は遅れており、外海に移動していない個体が残っていると思われる。

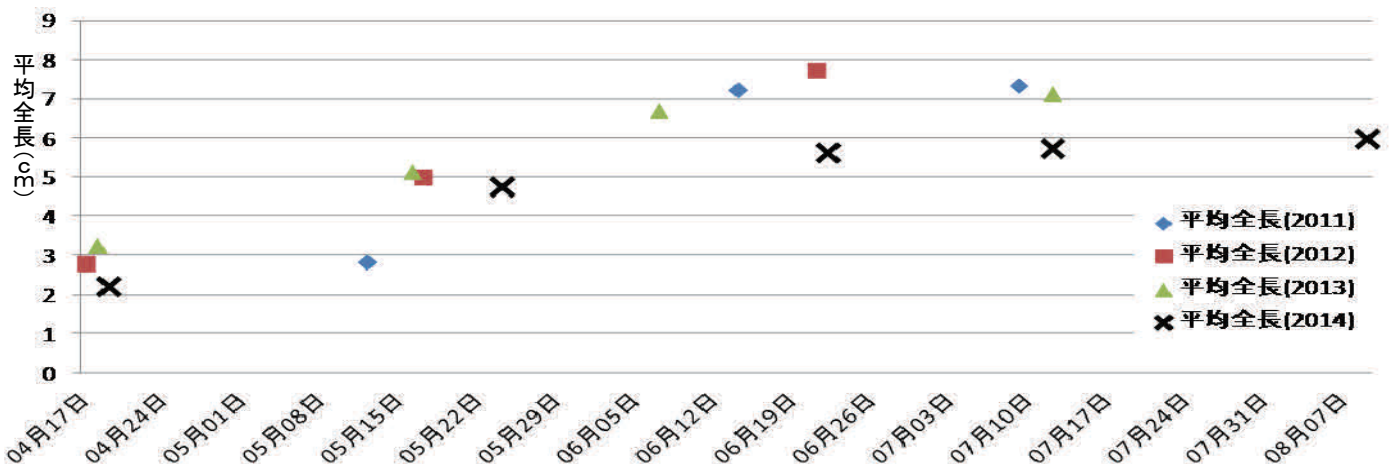


Table.1 2011年～2014年のイシガレイの採集日と平均全長

(佐藤 賢治)